九町小学校通信

1月20日発行

25日は学習発表会

今月25日は、学習発表会です。学習発表会は、

○日頃の学習活動の成果を互いに発表し合うことで、児童一人一人が達成感を持ち、学校生活を豊かにする。

○練習を通して個々の能力を生かすとともに、互いの連帯感を養う。

○保護者や地域の人々への発表の場を持つことにより、学校教育に対する関心を高め、理解を深める。

という、３つのねらいで行っています。

例年、児童の個性に応じて趣向を凝らした演目を披露しています。保護者のみなさんにとっても、楽しみな行事の一つではないかと思います。劇では、子供たちは自分とは違った役を演じますが、その子を想定して脚本が書かれたのではないかと思うようなときもあります。

劇作家の平田オリザ氏は、「どんな共同体にも、文化人類学などでいうイニシエーション（通過儀礼）やお祭り、農村歌舞伎、神楽といったものがある。人々は、こうしたイニシエーションを通じてコミュニケーションを図り、共同体としての一体感を高めてきた。それらは共同体を維持するための知恵であり、そういうものを持っている集団だけが生き残ってきた」と指摘しています。学校現場においても、遠足や運動会、音楽発表会など、全校や異学年で取り組む活動を行うことで、児童の所属感や協調性を高めている面があります。

また、平田氏は、「演じることは他者理解に通じます。セリフの意味を考えているうちに、『この人はなぜこんなところでこんなことを言うんだろう』とか『なぜこの人は黙っているんだろう』と自分の役や、他の人の役について自然と感じ取れるようになっていくからです」と、演技が他者理解につながることも指摘しています。

さらに、学級担任の立場では、授業とは違った子供の姿を見ることができるのも効果の一つです。私の教職の経験では、ふだんは物静かな女の子が、憎まれ役を喜々と演じている姿を見て、隠れた演技力に驚くと共に「ああ、この子の一面しか見ていなかったのだな」と反省したこともありました。

さて、今年度の学習発表会では、昔話や現代劇、ファンタジー、合奏、九町保育所の表現など、多彩な演目を披露します。子供たちは、どんな一面を見せてくれるのでしょう。